

豊中市地域包括支援センター外部評価表

○仕様書[4] 業務内容 ア) 介護予防ケアマネジメント業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
1	介護予防ケアマネジメント業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐ 自立支援に資するプランになるよう、委託先の居宅介護支援事業所に対し、積極的なアプローチを実施している。 ☐ 高齢者の主体性を引き出すための工夫をしている。 ☒ リハビリ専門職に意見を求めるなど、生活能力の改善・維持・悪化の可能性を見極める視点を培っている。 ☐ 潜在的対象者の把握について工夫している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標： 高齢者宅へリハビリ専門職と同行訪問する「アセスメント支援訪問」を推進する。また介護支援専門員に対して、リハビリ専門職のアセスメントの視点を学ぶ機会を提供し、介護予防ケアマネジメントに活かしてもらうようにする。 具体的な取り組み内容： ①相談のあったほぼ全ての新規要支援認定者に対して、リハビリ専門職と同行訪問をすることができた。併せて自立支援に向けた専門的アセスメントの視点を学び、その重要性を職員全体で理解し、実行に移すことができた。 ②ケアマネ交流会「しばはら結びの会」を今年度は定期的を開催することができた。5月開催時には市の理学療法士を講師に招き、「豊中はつらつ教室」の目的と意義について講義していただいた。参加者からは「よく理解できた」との感想をいただく等、介護予防に対する認識を深める機会を提供することができた。 ③「豊中はつらつ教室」を利用する方のケアプランを介護支援専門員に積極的に依頼した。担当していただくことで、リハビリ専門職の視点を学ぶ機会を提供、介護支援専門員からは「とても勉強になった」といった声を聞くことができた。	【取組進捗状況内容】 介護保険の要支援新規認定者に対する初回アセスメント時に、リハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士）と同行し、自立支援型ケアマネジメントの推進に積極的に取り組まれています。 【特に優れている点】 リハビリテーション専門職が、ほぼ全ての新規要支援認定者に対して同行する事によって、必要な支援の内容や方向性に専門職の視点が加わった支援計画の策定へとつながられています。 【課題】 利用者のニーズや意向と、リハビリ専門職のアセスメント、介護支援専門員の作成する支援計画の目的について、より一層、整合性を高めたり、方向性を合わせることを期待します。

令和 5 年度 柴原地域包括支援センター

		【課題】 ①介護支援専門員に対して、上記のように学ぶ機会を提供してきたが、「豊中のはつらつ教室」を利用される方のケアプランの委託が十分に進められず、理解の広がりが限定的になっている。 【改善の方策と次年度の取組み】 ①市とより一層連携を強化し「アセスメント支援訪問」を進めていくとともに、学んだリハビリ専門職の視点を手本とし、自らのケアプラン作成時に活かせるよう心掛ける。また、引き続きリハビリの重要性を学ぶ機会をつくっていく。 ②介護支援専門員に対して引き続き自立支援ケアマネジメントについての研修会等を案内、および日常の委託ケアプラン管理のやり取りを通して意識づけを行なっていく。またアフターコロナとなったため、事業所と積極的なコミュニケーションを図り、ケアプラン委託に繋がるように関係を構築していく。	
--	--	--	--

令和5年度 柴原地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 イ) 総合相談支援及び権利擁護業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
2	総合相談支援及び権利擁護業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐ 自分らしく尊厳をもって生活することができるよう、自己決定・意思決定支援をしている。 ☒ 予防的アプローチと地域づくりに取組んでいる。 ☐ 3職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施している。 ☒ 多機関と連携した重層的支援体制の構築に向けた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標： 地域共生社会の実現に向けて、関係機関との連携を強め、また、新たな連携を生み出し地域課題に取り組む 具体的な取組み内容： ①前年度より取り組んでいる移動販売を今年度も継続している。 徐々にではあるが周辺住民への周知がされてきている。 ②桜井谷地区公民分館の文化祭で介護予防の説明と歩行測定を行なった。 ③多機関協働でのケース会議に出席し、各機関と連携して問題解決に取り組んだ。 ④認知症サポーター養成講座を開催。地域住民へ認知症についての理解を促し、地域の見守り体制の構築を図った。 ⑤走井地区で昨年に引き続き、障害福祉事業所と包括合同で相談会を開催。今年度は民間事業所にも協力いただき、セミナーや血管年齢、骨密度などの測定会を同時開催したことで集客につながった。 ⑥大池校区で開催している「みんなの保健室」も3年目となり、地域の事業所にも参加していただく体制が構築されている。 ⑦認知症カフェを新規開催。 ⑧各校区で対面方式にて高齢部会を開催。地域課題の抽出や情報共有ができ、地域住民と事業所間の交流の場となった。 ⑨「刀根山ローラー作戦」として、刀根山校区を全戸訪問し住民からの様々	【取組進捗状況内容】 地域課題を踏まえた法人全体での取り組み等で、地域で生活できる環境構成に取り組まれています。予防につながるアプローチや啓発の機会を拡充できるよう努められています。 重層的支援体制が必要な事案に対しては、前年度より継続して、障害福祉事業所と連携しながら対応されています。 【特に優れている点】 地域の困り事に対して、法人全体として、できる事、支えられることで、移動支援や買い物支援を展開されています。 障害福祉事業所と合同での相談会を実施し、介護保険分野に留まらない、啓発活動や相談事業等を展開されています。 【課題】課題のある対象者に対しての、さまざまな角度から課題・原因分析し、対応策のスキルアップに期待します。

令和 5 年度 柴原地域包括支援センター

		な相談を受けている。	
		【課題】 ①移動販売や走井合同相談会については、参加メンバーが固定化している。 ②地域の担い手が不足している。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ①事業の継続、定着化のためにチラシの内容、配布方法の見直しを行う。 ②行政などとも連携し、担い手の確保・育成について検討していく。	

令和5年度 柴原地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
3	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☒介護支援専門員等への個別ケアマネジメント支援において、地域包括支援センターが代わりに行うのではなく、介護支援専門員がより良い判断に到達できるよう助言等の支援している。 ☐地域アセスメントを実施し、地域の実情に応じた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標： 圏域の介護支援専門員の自立支援型ケアプランの意識が高まり作成できる。 具体的な取組み内容： ①「地域ケア個別会議」を引き続き開催した。 ②「ケアマネ勉強会」を開催。1回目は認知症専門医からの講義および事例検討会を行った。2回目(令和6年1月)は認知症サポーター養成講座を開催予定で、認知症に関する正しい知識を身につけ、適切なプラン作成を促進する。 ③「しばはら結びの会」に市の介護予防係や社協担当者が参加、直接具体的な情報提供を行なっていただいた。 【課題】 ①「地域ケア個別会議」や「ケアマネ勉強会」、「しばはら結びの会」に参加している介護支援専門員は限られているため、参加を促進し、自立支援型の考えをより根付かせる必要がある。 【改善の方策と次年度の取組み】 ①来期も「地域ケア個別会議」を継続し、自立支援につながるケアプラン作成を行えるよう続けて支援していく。また、個別会議への活発な事例提出や参加への働きかけを行う。 ②「しばはら結びの会」「ケアマネ勉強会」を圏域だけでなく、圏域外の介護支援専門員へも広めていく。	【取組進捗状況内容】 地域ケア個別会議が3回、介護支援専門員の勉強会が2回実施されています。 【特に優れている点】 「しばはら結びの会」を展開し、行政や社会福祉協議会を含めた、介護支援専門員の情報交換・情報共有の場が創出されています。 【課題】 コロナ禍の制限下において、情報交換・情報共有の場が制限されていたため、実務に活用できる介護支援専門員の資質向上ニーズや形態にも変化が見受けられています。現在のニーズを踏まえた、開催手法や集客の工夫拡充に期待します。

令和5年度 柴原地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 エ) 一般介護予防事業を推進する取組みについて記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
4	一般介護予防事業を推進する取組み（次のいずれかの視点を記入してください） ☒地域の通いの場づくりにおいて、地域及びグループの特性に応じた活動を、創意工夫しながら支援している。 ☐多様な地域活動や通いの場等と連携し、介護予防ネットワークの構築を推進している。 ☐体力測定会において短期集中サービス終了後のセルフケアの定着を推進しつつ、地域資源につなげるなど高齢者の社会参加を促す取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標：高齢者の介護予防に対する意欲を創出し、継続して働きかける 具体的な取組み内容： ①会場の確保が困難な地域においては、自宅での通いの場立ち上げについて普及啓発を行った。自宅での開催においては、安全面への配慮など環境調整が必要な部分について事前に確認し、アドバイスを行った。 ②はつらつ教室終了後の方に対して、立ち上げの意義や実用性を説明し、主体的に通いの場を立ち上げる支援を行った。 ③参加人数が少なくなり、存続が厳しくなったグループの周辺地域に対して体験会を実施。その後、参加人数が増え、活気を取り戻した。 ④体力測定会で同じ職員が継続して関わり助言指導する等により、体調管理だけでなく「気軽に通う場所」としての役割も果たし、続けて会に参加しやすい雰囲気を作った。 【課題】 ①通いの場が立ち上げられていない地域がある。 ②体力測定会に参加できる方の地域が限定されている。 【改善の方策と次年度の取組み】 ①自宅での立ち上げ、はつらつ教室卒業生などに向けた普及啓発を行う。 ②複数の会場で体力測定会を行い、参加者を増やす。	【取組進捗状況内容】 通いの場づくりにおいて、従前の場所に限定せず、介護保険施設や自宅等、今までとは異なる開催場所を拡充していく事により、新たな参加者の参加にもつなげられています。 【特に優れている点】 地域の介護保険施設等との連携や提携を進め、新たな場の創出につなげられています。 【課題】 地域課題とニーズがあっても、様々な地域の課題で場の確保につなげられていないケースに対して、新たな視点や手法も踏まえた展開に期待します。

○仕様書[4] 業務内容 オ) 認知症地域支援・ケア向上事業について特に力を入れて取組んだことを1つ記入してください。

令和5年度 柴原地域包括支援センター

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
5	認知症地域支援・ケア向上事業（次のいずれかの視点を入れて取り組んでください） ☐ 認知症支援に関する個別事例において、嘱託医、初期集中支援チーム、疾患センター等の専門機関に相談する必要性を判断し、必要時相談できる体制を整えている。 ☒ 地域の実情に応じた方法により、認知症の人とその家族が参加する場で、本人の意欲向上と家族の介護負担感の軽減、認知症の人の在宅生活の安定を推進している。	【目標と具体的な取り組み内容】 目標：認知症ご本人やご家族が安心して住める地域づくりをめざす。 具体的な取り組み内容： ① 認知症サポーター養成講座の開催、認知症カフェへの参加や新規創設を促進するため、民間企業や介護保険サービス事業所へ訪問し、案内や周知を行なった。 ② 上記①を民生・児童委員定例会やケアマネ勉強会・交流会、高齢部会でも行った。 ② 当事者やご家族の参加が少ない現状のため、当事者やご家族の参加が見込める認知症対応のクリニックでの認知症カフェの立ち上げにつなげた。 ④ 既存の認知症カフェについては、オレンジャーさんの協力を得たり、オーケストラや駄菓子屋さんを招致する等継続した支援を行った。 【課題】 ① 上記のような活動を行うも、地域の方々や関係機関からの声を待つといった受け身的な体制であったため、改善する必要がある。 【改善の方策と次年度の取り組み】 ① 包括主催の認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方々や関係機関の参加を促進する。 ② 上記した認知症対応のクリニックでのカフェ開催を継続し、その経過を参考にしながら、当事者やご家族も参加しやすいカフェの模索、創設をめざす。	【取組進捗状況内容】 認知症の当事者や家族等の場として、認知症カフェの立ち上げや、ボランティア協力者の育成確保に取り組まれています。民生委員・児童委員や、圏域の介護保険施設への周知・啓発に取り組まれています。 【特に優れている点】 医療機関等、ニーズが高い場所での立ち上げが、必要とされる方々との接点拡充につながっています。 【課題】 認知症当事者や家族等の一定の参加が推進しているという状況を活かした、さらなる展開の拡充に期待します。